

R7.12.24 時点

資料2-3-2

冊子のデザインは変更を予定しています

福祉のまちづくりのための施設整備バリアフリーガイドライン 別冊

当事者参画によるバリアフリー 取組事例集（素案）



当事者参画によるバリアフリー取組事例集

目次

『当事者参画』とは.....	1
はじめに.....	1
本ガイドラインの対象施設.....	1
『当事者参画』の意義ともたらす効果	1
当事者参画導入の留意点	2
当事者参画の取組事例① 万博ユニバーサルデザインガイドライン	3
当事者参画の取組事例② 大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオン	7
当事者参画の取組事例③ 大阪・関西万博 日本館	11
当事者参画の取組事例④ 関西国際空港.....	16

『当事者参画』とは

はじめに

年齢、性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、すべての利用者にとって使いやすい施設を整備するためには、バリアフリー法や大阪府福祉のまちづくり条例に基づく基準、望ましい基準や配慮等を示すバリアフリーガイドラインによる整備を進めることにとどまらず、建築プロジェクトの構想、設計、施工、維持管理・運営の各段階において、施設利用者が参画して施設固有の事情や立地に対するユーザビリティを確認しながら、検討・整備を進めることができます。

令和7年5月に国土交通省が策定した「建築プロジェクトの当事者参画ガイドライン」では、当事者参画を進めるまでの基本原則のほか、具体的な企画の進め方、実施する際の留意事項、各段階における具体的な実施内容が示されています。

本書では、国土交通省のガイドラインを補完し、当事者参画により整備が進められた具体的な事例を示すことで、当事者並びに建築主（発注者）、設計者、施工者、施設管理者及び施設運営者における当事者参画の重要性の理解増進を図るとともに、建築プロジェクトにおける当事者参画の自発的な実施を促進することを目的としてとりまとめたものです。

施設整備・運営に携わる皆様におかれましては、国土交通省のガイドラインと併せて本書を参考にして、「当事者参画」に取り組んでいただけるよう、ご理解・ご協力を願いいたします。

本ガイドラインの対象施設

本ガイドラインの対象となる建築物は、公共、民間に関わらず、不特定多数の者が利用する建築物又は主として高齢者・障がい者等が利用する建築物を対象としています。

例：庁舎等の事務所、劇場、集会場、スポーツ施設、病院、福祉施設 等

なお、その他の建築物においても、利用者の特性等を勘案し、可能な限り本ガイドラインを踏まえた検討を進めることが大切です。

『当事者参画』の意義ともたらす効果

当事者参画とは、建築プロジェクトのプロセスにおいて、当事者が意見表明すること、当事者間で意見交換すること、ワークショップ等に参加すること等を通じて、施設の整備・運営の完成度を高めることに関与することです。

建築プロジェクトの各段階で当事者参画が実施されることが望ましいですが、まずは、どんなことからでも取り組みやすい当事者参画を始めることが重要です。

設計・計画段階での当事者参画が進むことで以下に示す効果が期待できます。

- 当事者と事業者等の相互理解（必要性と課題の理解）が深まることにより、多様なニーズを反映した納得感のある質の高い施設整備につながる。
- 事業者等にとっては、多様な方々のニーズに対する理解が深まる。
- 当事者にとっては、施設整備の全体像や施設整備に係る制約（建築条件、法令等の制約、予算、工期等）に対する理解が深まる。
- 当事者間でニーズが一致しない場合に、当事者参画のプロセスを通じて、相互理解が深まる。

当事者参画導入の留意点

当事者参画の仕組みを導入する際の主な留意点を以下に記します。

- 多様な当事者の参加の確保
 - ・障がい種別や年齢等、異なる複数の当事者に参加いただき、特定の視点への偏りを防ぐ。
- 情報保障の補助する仕組みづくりの構築
 - ・手話通訳や要約筆記、点字資料等による情報提供により、誰もが平等に議論に参加できる環境を整備することで参画の質を高める。
- ソフト整備の検討
 - ・ハード面の整備だけでなく、比較的導入しやすい情報提供等のソフト面についても積極的に検討する。
- 安全・快適な議論空間の整備
 - ・会場のバリアフリー対応に配慮する。（段差解消、誘導サイン、人的サポート等）
 - ・対面のみでなく、オンラインで参加できる環境を整え、移動負担を軽減する。
- 当事者参画のプロセスの発信
 - ・検討の流れやプロセス等を関係者や一般に公開することでさらなる普及を促進する。
- 継続的改善（スパイラルアップ）の仕組み
 - ・継続的な改善を重ねることで、より質の高いバリアフリー環境の実現を目指す。

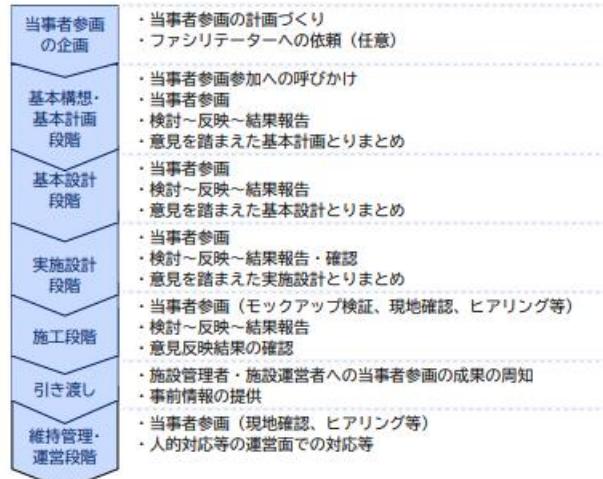
建築プロジェクトの当事者参画ガイドライン（国土交通省）

令和7（2025）年5月公表



- 建築プロジェクトにおける当事者参画を促進することを目的として作成・公表
- 当事者参画の基本原則のほか、企画段階から維持管理・運営段階に至るまでの具体的な取組内容や留意点等がまとめられている

図 事業段階と当事者参画の取り組み



出典：高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準

【別冊 建築プロジェクトの当事者参画ガイドライン】

<https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/content/001892108.pdf>

QR

当事者参画の取組事例 ①

万博ユニバーサルデザインガイドライン

大阪・関西万博では、「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマと「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインコンセプトを踏まえ、すべての来場者にとって、より利用しやすい博覧会会場を実現するため、障がい当事者や学識経験者等を意見を伺う検討会を開催するとともに、Tokyo2020 アクセシビリティガイドライン等昨今の事例を参考に、議論や知見を反映し、ユニバーサルデザインガイドラインの改定を行った。

概要

- 目的：国・地域、文化、人種、性別、世代、障がいの有無に関わらず、誰もが安心・快適に楽しみ、安全に避難できる万博会場を実現するための環境整備の実現を目的として、施設整備に関する共通の基準と考え方を示したもの。

- 作成：2025年日本国際博覧会協会

- 経緯：2021年7月に「施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン」を制定・公表。

2022年3月に国際パラリンピック委員会の原則や東京2020オリンピック・パラリンピックのアクセシビリティガイドラインを踏まえ、障がい当事者や専門家との共創によって全面改定。



【出典】施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン（2022年3月）【改定版】

客席に関する検討会

参加メンバー

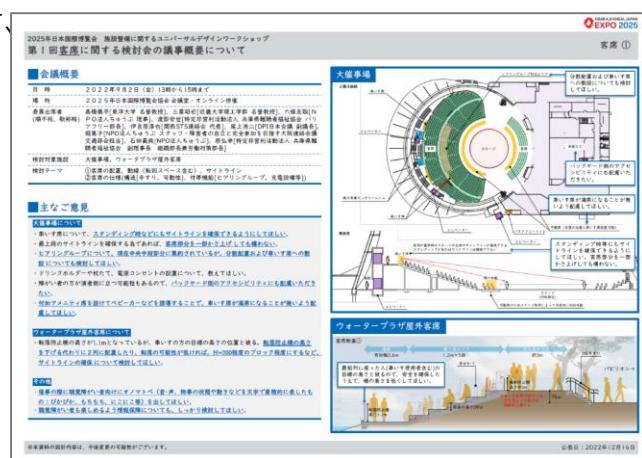
学識経験者・聴覚障がい者・身体障がい者・各障がい者支援団体 計10人

実施方法・開催数

ワークショップ形式 全3回

概略

- 座面高さ、車椅子席への動線の検討、通路やスロープに人を立ち止まらせないための人的対応等の検討
- 平土間部分に必要席数分の車椅子スペースを国際シンボルマークなどで明示する等の検討（だれが見ても車椅子使用者のスペースであることが分かるように）
- サイトライン、車椅子席の分散配置、ヒアリングループの導入、階段段差の輝度比



【出典】2025年日本国際博覧会施設整備に関するユニバーサルデザインワークショップ第1回客席に関する検討会の議事概要



エレベーター／エスカレーターに関する検討会

参加メンバー

学識経験者・視覚障がい者・聴覚障がい者・身体障がい者・各障がい者支援団体 計 11 人

実施方法・開催数

ワークショップ形式 全2回

概略

- エレベーターの仕様、円滑な垂直移動の確保のための設置方針、ボタンの操作性等について検討
 - エスカレーターの速度や手すり部分の照明、逆侵入防止等、安全対策について検討
 - 緊急時に備えた対策の検討
 - 大屋根リングのエレベーターを1箇所追加設置

→【出典】2025年日本国際博覧会施設整備に関するユニバーサルデザインワークショップ第2回エレベーター/エスカレーターに関する検討会の議事概要

カームダウン/クールダウンスペース

参加メンバー

学識経験者・身体障がい者・精神障がい者・各障がい者支援団体 計 10 人

実施方法・開催数

ワークショップ形式 全2回

概略

- 8 箇所の休憩施設については全て個室タイプかつ会場内分散配置、また一部車椅子で利用可能な広さを確保
 - カームダウン・クールダウンスペースと授乳室・おむつ交換室は離して配置
 - 内装の色は場所によって選択できるよう検討
 - 外部デザインは分かり易いピクトグラム表示
 - ガイドラインに基づく調査

【出典】2025年日本国際博覧会施設整備に関するユニアーサルデザインワークショップ第2回カームダウン／クールダウンスペースに関する検討会の議事概要



トイレに関する検討会

参加メンバー

学識経験者・視覚障がい者・身体障がい者・各障がい者支援団体 計 11 人

実施方法・開催数

ワークショップ形式 全 3 回

概略

- 主要動線からの誘導方法についての具体的検討
- トイレ前の触知案内板は中のレイアウトが分かるように
- 省スペースのトイレ内の誘導方法
- 機能分散の有効活用を考えた、扉へのサイン表示、床へのサイン設置
- 床材を変えた注意喚起、ベンチの設置箇所等
- バリアフリートイレの出入りに大型ベッドが干渉しないレイアウト
- 大便器の男女比をスフィア基準（1：3）同等に設定、男性用大小便器比は日本サッカー協会スタジアムの基準を参考に概ね 1：2



バリアフリートイレモックアップ検証

【出典】2025 年日本国際博覧会施設整備に関するユニバーサルデザインワークショップ第 3 回トイレに関する検討会の議事概要より抜粋

移動/案内/誘導

参加メンバー

学識経験者・視覚障がい者・身体障がい者・精神障がい者・各障がい者支援団体 計 14 人

実施方法・開催数

ワークショップ形式 全 5 回

概略

- サインが設置される足元に植栽帯を設けないことや屋外のサインの見つけやすさ
- ひらがな表記は、行動起点となる広場名称に対して併記
- コントラストにも配慮したカラープラン
- 必要な情報、視認距離、文字サイズを確保しつつ
大きくなり過ぎず調整、
遠方からでもよりサインを認識しやすいデザイン
- 施設誘導サインに距離表記
- 暴露試験を実施し、色あせに配慮

→大阪・関西万博：
床面誘導サインの様子



スケジュール

2022				2023												2024	
9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
<p>●</p> <p>第2回トイレ</p> <p>第1回客席 移動／案内／誘導 回力ムダウングルダンススペース</p>	<p>●</p> <p>第2回トイレ</p> <p>第1回客席 移動／案内／誘導 回力ムダウングルダンススペース</p>	<p>●</p> <p>第2回トイレ （モックアップ検証）</p> <p>第2回エレベーター／エスカレーター ムダウングルダンススペース</p>	<p>●</p> <p>第3回トイレ （モックアップ検証）</p> <p>第3回移動／案内／誘導</p>						<p>●</p> <p>第4回客席 移動／案内／誘導</p>							<p>●</p> <p>第5回移動／案内／誘導</p>	



当事者参画の取組事例 ②

大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオン

大阪ヘルスパビリオンでは、「REBORN(リボーン)」をテーマに「健康」を軸とした体験型展示を通じて来場者が自身の健康や生き方を見直すきっかけを提供し、2030年以降の「大阪の成長・経済発展」や「いのち輝く幸せな暮らし」の実現をめざし建築された。また、建築だけでなく、展示や運営まで、検討の過程も含めてユニバーサルデザインを推進する、大阪ヘルスケアパビリオンUD推進チームを設置し、検討が進められた。

概要

- 敷地面積：約 10,500 m²（本館棟、XDHALL バックヤード棟）
- 建物高さ：最大 20m（地上 2 階建て）
- UD推進チームメンバー：
 - ・エキスパート：石塚裕子先生（東北福祉大学）
 - ・お困りごと当事者のみなさん：車椅子使用者、視覚障がい者、聴覚障がい者、精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者、LGBTQ、医療ケア児、子育て
 - ・協力企業：TOTO 株式会社、株式会社シブタニ、株式会社サイエンス
 - ・事務局：（公社）2025 年日本国際博覧会大阪パビリオン



主な取組内容

参加メンバー

学識経験者・身体障がい者・視覚障がい者・聴覚障がい者・精神障がい者・知的障がい者、発達障がい者、LGBTQ、医療ケア児、子育て世帯、支援団体 計 22 人
作り手企業、展示・建築の設計施工受託者 計 6 社

実施方法・開催数

当事者ヒアリング：5 回 ワークショップ形式、モックアップ等：19 回（モックアップ 3 回、現地確認 3 回）

概略（トイレ）

- 「誰もが使いやすい、マイのトイレ」を目指し、意見交換や福笑い形式でトイレプランを作成
- 男女共用スペースや、多様なニーズに対応するためのファミリーコーナーやスタイリングコーナー等を設置
- トイレの案内誘導サインや使い勝手の原寸大で検証（原寸床表示）
- みんなトイレのサインやコンセプトボード、触知図のイメージと、表示するピクトグラムの種類や位置、トイレの空き情報案内について検討



みんなでトイレ作成チャレンジ（ワークショップ）の様子
【出典】大阪ヘルスケアパビリオン HP

https://2025osaka-pavilion.jp/img/universal-design/initiative/initiative_02.pdf



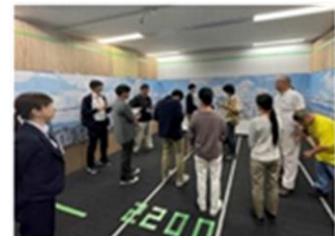
空き表示モニターの設置高さ等の確認の様子

【提供】大阪ヘルスケアパビリオン



概略（館内の移動）

- 来館者がみんな同じルートで展示を体験でき、より高い安全性の確保できるように「カート型」から「リフト型」に変更
- 避難誘導設備（非常放送、光警報装置、緊急情報表示システム、点滅機能及び音声誘導機能付き避難口誘導灯）を設置
- 外部階段の一時待避スペースに、防災センターと会話ができるモニター付きインターホンを設置



ポッドやライドのモックアップ検証：
ミライのライド確認の様子
【出典】大阪ヘルスケアパビリオン HP
https://2025osaka-pavilion.jp/img/universal-design/initiative/initiative_07.pdf

概略（カームダウン／クールダウンルーム）

- 室内の設備や内装などの詳細を検討
- 部屋の原寸大図を床に描いて、扉の位置や大きさ、仕上げ材料等を検討
- 内装材の色やスイッチなどをサンプルを元に検討、内装の仕上は落ち着いた色、スイッチは車椅子でも操作しやすい高さ 1100 mmに決定
- 1 階のみ横になれるスペースを確保
- 呼び出しボタンに加えて、警備室と通話ができるようインターホンを設置



扉の位置や大きさを実物大レイアウト 気になる部分など意見交換している様子
で確認している様子

【提供】大阪ヘルスケアパビリオン

概略（展示）

- 展示イメージのヒアリングや、展示体験の原寸大で壁の映像の高さや見やすさ、サインの文字の見やすさや高さなどを検討
- ナビレンズ（視覚障がい者向けアプリ）コードの設置位置と音声内容の現地確認



カラダ測定ポッドの確認の様子



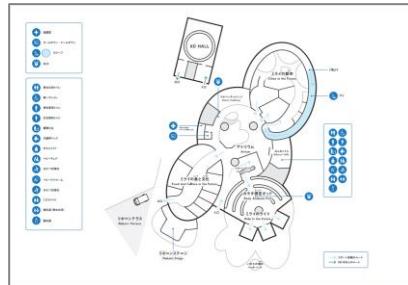
NaviLens：視覚障がいのある方へ、主に音声とテキストを提供

【提供】大阪ヘルスケアパビリオン

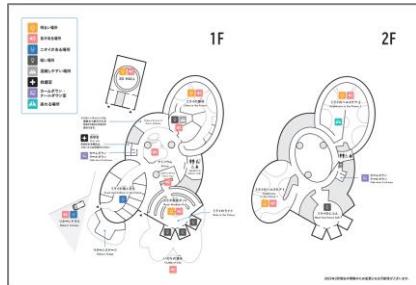


概略（広報）

- 情報を見つけやすいホームページとするためユニバーサルデザイン情報やユニバーサルデザインマップ、センサリーマップについて検討
- 当事者から学ぶ座学研修と現地研修を実施



ユニバーサルデザインマップ



センサリーマップ

【出典】大阪ヘルスケアパビリオン HP <https://2025osaka-pavilion.jp/universal-design/>

概略（全体）

- 設計段階から運営まで、最初から最後まで当事者参画で検討を進めた

スケジュール

2022												2023												2024												2025												
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
「当事者ヒアリング」 トイレ①～③ カームダウン・クールダウン①②	ヒアリング意見とりまとめ報告	みんなでトイレ作成チャレンジ	トレイプラン案の説明と意見ヒアリング	トレイとカームダウン・クールダウヌルームプランの確認など	展示計画などの説明と意見ヒアリング	みんなトイレの原寸床表示での案内誘導サインほかの確認	展示計画などの説明と意見ヒアリング	カームダウン・クールダウヌルームの設備等の確認	みんなトイレの原寸床表示での案内誘導サインほかの確認	ポッドやライドのモックアップ検証等	視覚障がい者個別ヒアリング	ホームページでの事前情報提供	ナビゲーションの確認（現地） アビレント研修の進め方（現地） アビレント研修（現地） アビレントの確認（現地） アビレントの確認（現地） アビレントの確認（現地）																																			



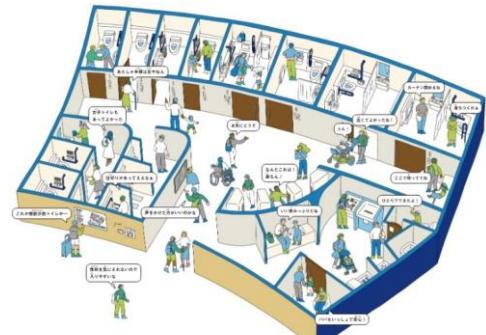
事例 みんなトイレ

POINT

- パビリオンの企画・設計段階から運営までの取組過程 자체がユニバーサルデザインという共通認識のもと当事者と一緒に、みんなで一緒にミライのユニバーサルデザインのあり方について検討した。
- 「誰もが使いやすい、ミライのトイレ」をテーマにコンセプトに沿って、トイレプランを福笑い方式（みんなでトイレプラン作成チャレンジ）で作成し、発表した。

みんなでトイレプラン作成チャレンジ

みんなが自由に選んで自然に使えるトイレをめざして、トイレの困りごとを伝えあい、プランと一緒に作り、使いやすさを確かめ完成しました。会期中も利用者の声を聞き、思いをつなげていきます。



【提供】大阪ヘルスケアパビリオン

UDひろば（ユニバーサルデザインひろば）

大阪ヘルスケアパビリオンでは、来館者が、ユニバーサルデザイン（以下、「UD」という）を意識し、考えてもらうきっかけとなるように、UD の取組紹介するボードをみんなトイレ前に設置しました。また、誰かのお困りごとやその手助けを考えるきっかけとして、また、その思いが誰かの気づきになることを期待して、来館者に UD への想いをカードに書いてパネルに掛けてもらう仕組みを設けました。



UDひろば
(大阪ヘルスケアパビリオン みんなトイレ前)



当事者参画の取組事例 ③

大阪・関西万博 日本館

日本館では、「いのちと、いのちの、あいだに」をテーマに、いのちを取り巻く多彩な「循環」を体感できる建築や展示が特徴である。また、全体を緩やかなスロープでつなぐ円環構造を採用し、誰もが一緒に移動し楽しめる空間を実現した。さらに、基本設計から施行までワークショップを重ね、障がい者を含む多様な当事者から意見を設計・施工に反映し、誰もが使いやすいユニバーサルデザインを具現化を目指し検討が進められた。

概要

- 敷地面積：約 12,950 m²
- 建築設計：日建設計
- 施工：清水建設
- UDWS 参加者：学識経験者、障がいを持ちながら活用している有識者、LGBTQ、子育て支援の有識者等



主な取組内容

参加メンバー

設計段階：学識経験者 7名 障がい当事者 25名 計 32名

施工段階：学識経験者 3名 障がい当事者 22名 計 25名

(身体障がい者、視覚障がい者、聴覚障がい者、精神障がい者、LGBTQ、各支援団体等)

実施方法・開催数

設計段階：ワークショップ形式 6回

施工段階：ワークショップ形式 3回 モックアップ 2回 取りまとめ・報告会含む 6回

概略（スロープ、手すり）

- スロープ・踊場の床材の材質や色について三和土の表面を滑らかにし、勾配に変化が付くスロープの上下端に濃い色の三和土をライン状に入れることで視認できるようにするなど改善
- 手すりは夏場の暑さ対策も考慮しフィルムシート貼りとし、手すりは、握りやすさ、使いやすさを考慮
- 円形回廊の手すりについては、身体を支える役目のほかに、レールガイド、ラインガイド（後述）と併せて視覚障がい者の誘導のための役割をもっており、回廊内に連続して敷設

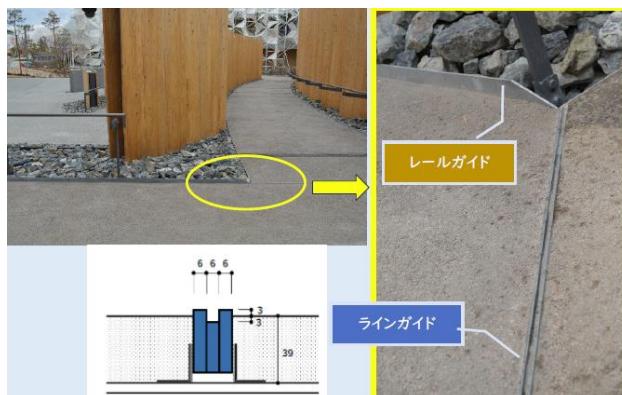


【出典】大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて



概略（レールガイド・ラインガイド）

- 日本館の円形回廊では、視覚障がい者が一人できても移動が可能な移動空間をめざして、誘導ブロックに代わる誘導機能持たせた、新たな「レールガイド」「ラインガイド」を設置
- 「レールガイド」は、円形回廊にそった手すりの下部に、高さ 5 cm の金属の板を設置し、視覚障がい者が白杖を添わせて移動方向を確認できるものとして設置
- 「ラインガイド」は、レールガイドが途切れる通路の渡りの部分などに高さ 3mm の金属の突起を 2 列で敷設し、連続性を確保。ラインの隙間に白杖を当てるようにして誘導



【出典】大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて

概略（視覚障がい者用誘導ブロック）

- 敷設範囲の色は黄色で統一
- 誘導は箇所により線状・点状ブロック、係員、手すり・レールガイド・ラインガイドと設定
- 避難階段、トイレの触知図案内板の床に点状ブロックを敷設
- スロープについて意見にもとづき、点状ブロックは設置せず弱視者などのためにスロープの端の色を変えることで、視認を高めるよう改善



【出典】大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて

概略（授乳室）

- ベビーベッドの直上の照明は光が直接目に入らない位置に調整



授乳スペース



授乳スペース

（出入り口は鍵がかけられるアコーディオンカーテン）

【出典】大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて



概略（トイレ）

- 『できる限り多くの人が利用しやすいトイレ』を目指してタイプの違うトイレを用意し、全体として多様な人が使いやすいバランスで配置し、日本館周辺エリアのトイレが受け持つ機能も考慮したタイプを計画
- 車椅子対応便房に姿見を設置（計5箇所）
- バリアフリートイレの大型ベッドは車椅子利用者が操作しやすい跳ね上げ式に変更、洗面台の手すりの間の幅を550mmに変更し、肘を支持できるように改善し、実際にモックアップで550mmが問題なく使いやすいため確認
- 壁付リモコン類と壁は同系色をやめ、リモコン背景を3種類で整理を行いリモコンの認識がしやすいうように改善
- 個室型男女共用便房の手洗いカウンターの形状を台形から丸みのある三角形に変更、他の設備も調整し、トイレブース内の使い勝手を改善
- 呼出ボタンは日本館周辺施設と種類や配置を統一
- フック位置は出入口扉のブース内側に統一して設置し安全に配慮した形状とした
- 扉の仕様は全開時ストッパーを整備、軽い力（UDガイドラインの30N以下）で開閉可能とし、バリアフリートイレの内部側に補助手すりを設置
- 通路は幅がある程度広く、T字路部に誘導スタッフを配置するため鏡の設置は無しとした



【出典】大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて

概略（カームダウン・クールダウルーム）

- 内装の仕様は柔らかいクッション材を採用。
色はウォーム系の薄いグレーとした
- 照明は部屋の利用者が調光可能な照明を設置



カームダウン・クールダウルームの内装の様子

【出典】大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて

概略（その他）

- 床面点字に関してはトイレの広さや、色彩計画でコントラストをつけていたため、ある程度認識できると思われるという意見から設置はしない
- フラッシュランプ点灯の説明文を掲示
- トイレブースと通路、カームダウンクールダウルーム、授乳室にフラッシュランプを設置
- 非常時にはスタッフによる避難誘導がなされるため、文字情報による表示は行わない

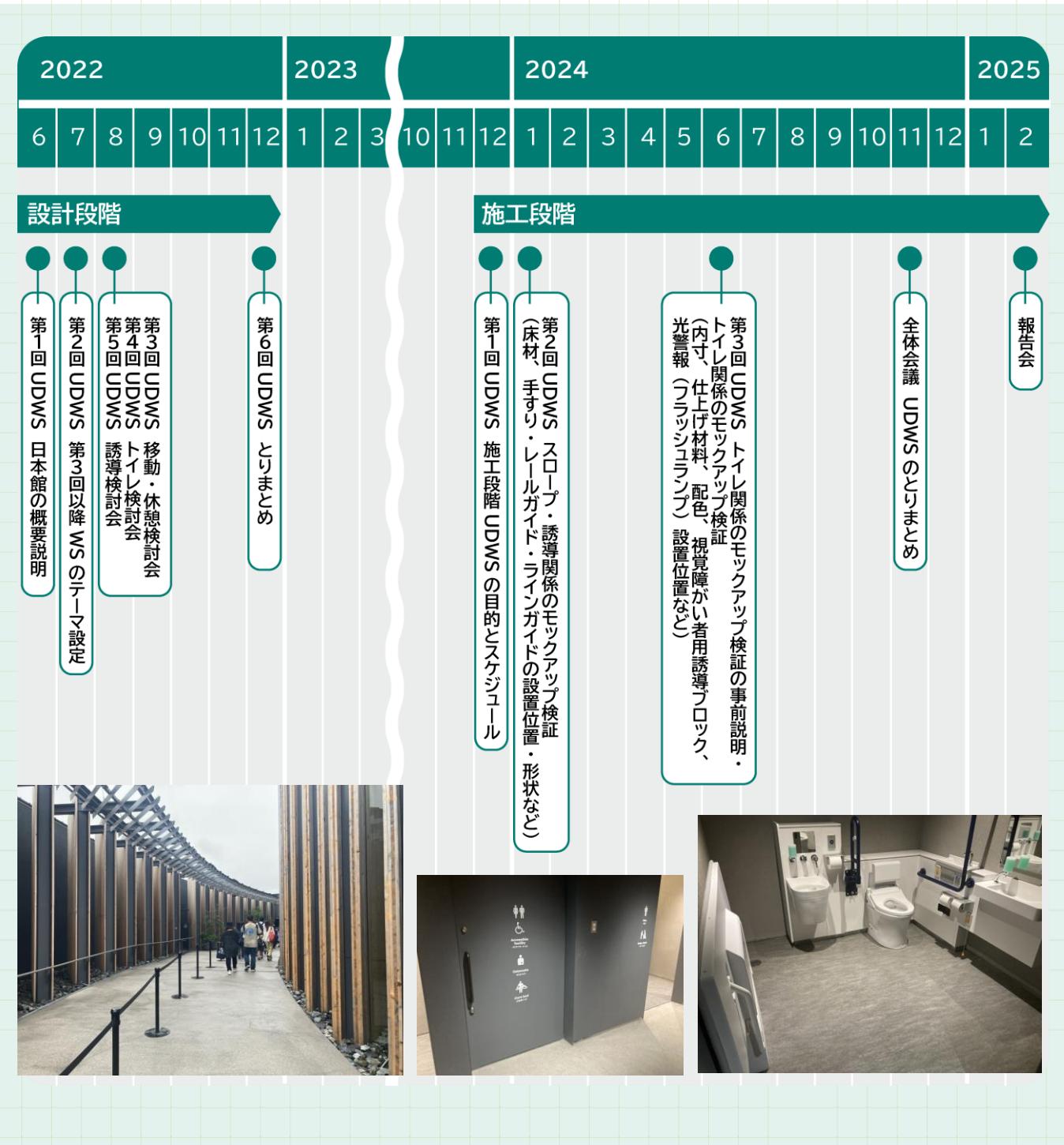


フラッシュライト点灯の説明文

【出典】大阪・関西万博日本館（仮称）整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて



スケジュール



事例 スロープ、誘導関係

POINT

- 基本設計から施工まできめ細やかに当事者とワークショップを実施し。様々な障がい者等から意見を聴取し、それを設計・施工に反映した。
- 誰もが一緒に移動し、同じ空間を楽しめるよう、会場全体を緩やかなスロープで連続的につなぐ設計を採用した。
- 来館者が円形の回廊を入口から一方向で移動し、進行方向へ一筆書きの歩行ルートにそって、視覚障がい者誘導ブロックに代わる、視覚障がい者の誘導機能を持たせた日本館独自の新たな試みとして、「レールガイド」と「ラインガイド」を設置した。

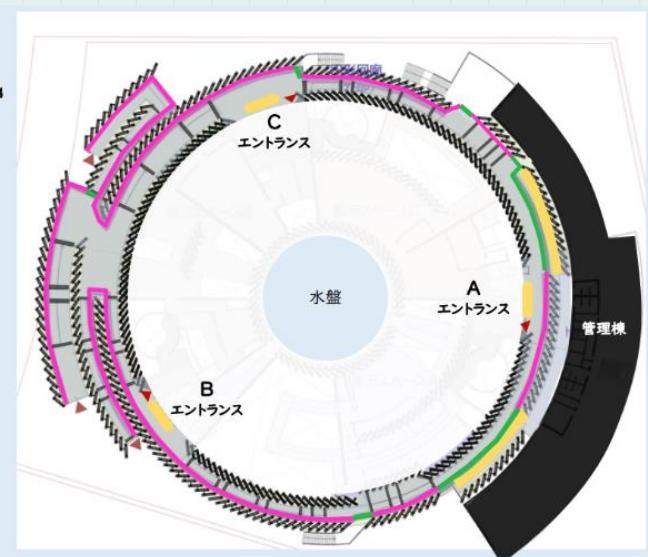
UDWS の意見等に基づく施工内容

施設・設備等	ご意見	施工内容(UDへの配慮事項)
勾配	・5%で通行に問題はない(参加者共通意見)	・スロープの勾配は設計当初から5%を前提として、多様な人が同じように使いやすくしている
床材	・三和土のざらつきは足が不自由な人、高齢者等にとって、つまづきやすくなる	・床材は自然性が高く、リサイクルしやすい三和土を採用している。三和土の表面を滑らかにし、車椅子、高齢者、片麻痺の人などがつまづかないようにする
床の色	・スロープと踊り場の微妙な色の違いや表面仕上げの違い(なめらか・ざらざら)は分かりにくい	・設計段階は5%勾配のスロープと踊り場を三和土の表面仕上げで区別するよう計画していた(点状ブロックの敷設は不要と確認していた)。 ・施工段階の検証の結果、表面仕上げの違いではなく、スロープの上下端に濃い色の三和土をライン状に入れることで視認できるようにする。

ワークショップを実施する際には、特に視覚障がい者にどうやって理解してもらうかという点において、立体模型や立体コピー図を作成し、実際に模型を触ってもらひながら構造等について理解していただいた。



床材(滑らかな箇所とざらざらの箇所)



床面の色、レールガイド、ラインガイドの設置位置

【出典】大阪・関西万博日本館(仮称)整備工事におけるユニバーサルデザインワークショップについて
<https://www.kkr.mlit.go.jp/build/policy/other/qgl8vl0000000eer-att/nihonkan.pdf>



当事者参画の取組事例 ④

関西国際空港

関西国際空港は1994年に開港され、国内有数の国際線・国内線のネットワークを提供する国際拠点空港です。関西国際空港では、誰もが安心して利用できる空港を目指して、段差のない旅客搭乗橋の導入やオールジェンダートイレの新設等のバリアフリー化に積極的に取り組んでいます。これらの取組にあたっては、当事者も含めてフォローアップ会議や検討会を複数回開催し、対話しやすい環境づくりを心がけながら、課題の本質を追求し、真に必要なものを見極め、利用者にとってより快適で安全な空港づくりを進めています。

概要

- 所在地：大阪府泉南郡田尻町
- 面積：1期空港島：約510ha 2期空港島：約545ha
- 航空旅客数：約30百万人/年

画像

主な取組内容

参加メンバー

学識経験者、身体障がい者、視覚障がい者、聴覚障がい者、精神障がい者、各障がい者支援団体、子育て支援団体、施設管理者等、地方公共団体 計31人

実施方法・開催数

検討会 全8回 現地見学会 全5回
フォローアップ会（EV フォローアップ検証、トイレモックアップ含む）全14回

概略（階段）

- 2段手すりの設置

概略（カームダウン・クールダウンスペース）

- 出国手続き後のエリアに4カ所設置（国内線保安検査場の前後2カ所など）



【出典】第3回移動等円滑化評価会議 近畿分科会
<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/000272408.pdf>

【出典】関西国際空港 HP
<https://www.kansai-airport.or.jp/service/bf/09.html>



主な取組内容

概略（一般トイレ）

- 機能分散として、近隣に授乳室がある場合は、ベビーシート設置取りやめ車椅子優先トイレを設置
- 一般トイレに車椅子で利用可能な個室の設置（奥行き寸法を1000～2000mmに広げる。（新設トイレ22カ所のうち11カ所））
- 足元スペースの確保や洗面鏡高さ変更する等、車椅子対応の洗面台を設置
- 個室ブースの工夫として、折れ戸の表裏の色を変えて、使用中か一目で分かるようにする。
- フラッシュライトの設置
- トイレ入口に音声案内の設置
- トイレ入り口のピクトグラムの変更



トイレモックアップ
検証会の様子①

【出典】第4回 移動等円滑化評価会議 近畿分科会
<https://wwwtb.mlit.go.jp/kinki/content/000323980.pdf>

概略（多機能トイレ）

- 男女共用できる位置に設置（異性介助者等への配慮のため）する等、レイアウトを検討
- 便座に座っている状態や転倒時でも対応できる位置に緊急呼び出しボタンを設置
- 開閉スイッチを押しやすい位置に設置変更
- 荷物掛けフックを利用しやすい高さに変更



トイレモックアップ
検証会の様子②



トイレモックアップ
検証会の様子③

【出典】第4回 移動等円滑化評価会議 近畿分科会
<https://wwwtb.mlit.go.jp/kinki/content/000323980.pdf>

概略（エレベーター）

- かごサイズの見直し。検証の中で4台同乗が可能と判明し、カゴのサイズの大型化・出入り口を拡幅した。また片袖化にする効果は大きい。
- 緊急時に車椅子手すり高さによる袖確認等



EV フォローアップの様子①

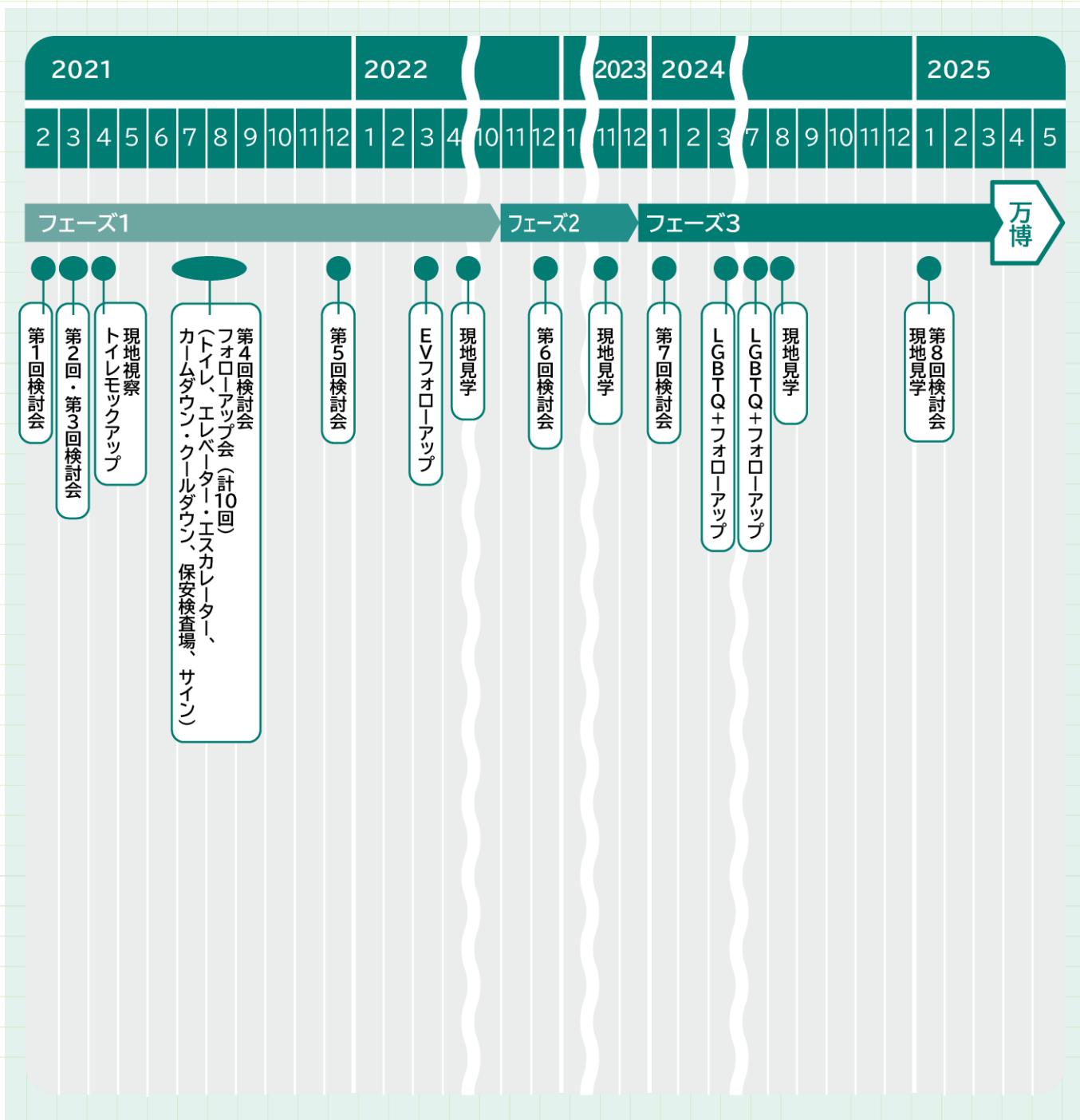


EV フォローアップの様子②
視覚障害者による袖確認等

【出典】第4回 移動等円滑化評価会議 近畿分科会
<https://wwwtb.mlit.go.jp/kinki/content/000323980.pdf>



スケジュール



事例 エレベーター緊急通報システム

POINT

- 対話しやすい環境づくりを心がけ、それぞれの課題に対して、当事者間での意見交換を含め、話しやすい場をつくる工夫を行ったことで、課題の本質を追求し、本当に必要なものは何かを導き出した。（全体会議だけでなく、小規模でのフォローアップ会議の開催）
- 対面と WEB を併用したことで、より多くの方に検討会やフォローアップ会に参加していただいた。

エレベーター緊急通報システムの設置までの主な検討の流れ

(意見への対応が難しい中、代替案を検討した事例)

1

EV に緊急時の音声通話装置だけでなく、緊急時対応のモニターがほしい

2

- ・全 EV に設置すると多額のコストがかかつてしまう…
- ・過去実績から EV 内閉じ込めが発生する頻度は年 1 回程度

3

モニターがあることが重要ではなく、**緊急時に聴覚障がい者が使用できる連絡手段が必要**

4

緊急時にチャットで連絡できるシステムを構築

【参考】関西国際空港 提供資料より作成



【出典】関西国際空港ホームページ
<https://www.kansai-airport.or.jp/service/bf/08.html>



非常時は左下の
2 次元バーコードから
係員に連絡できます。

EMERGENCY TEXT
MESSAGE

비상 연락 채팅 시스템

紧急联络聊天系统

緊急聯絡聊天系統



KIX
Kansai
International
Airport



裏表紙

福祉のまちづくりのための施設整備バリアフリーガイドライン《本編》

- 施設のバリアフリー設計、維持管理時の配慮事項等をまとめた指針として、条例に基づく義務基準の解説に加え、望ましい基準や事例等を紹介しています。

QR

当事者参画によるバリアフリー取組事例集

福祉のまちづくりのための施設整備バリアフリーガイドライン《別冊》

- 施設の設計、維持管理・運営等の各段階において当事者意見の反映を促進するため、当事者参画で進められたバリアフリー化の取組事例を紹介しています。

QR

おおさかユニバーサルデザインマップ【現在制作中】

- ウェブ上で施設のバリアフリー情報を見ることのできるポータルサイトです。
【事業者様向け】ホテルやお店のバリアフリー情報を掲載できますので、ぜひご覧いただき、情報の登録にご協力ください。

QR

大阪府 都市整備部 住宅建築局 建築環境課

〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）27階

TEL 06(6210)9717 / フックス 06(6210)9714

HP http://www.pref.osaka.lg.jp/kenshi_kikaku/fukushi_top/index.html (おおさかのあたりまえ／福祉のまちづくり)

QR

